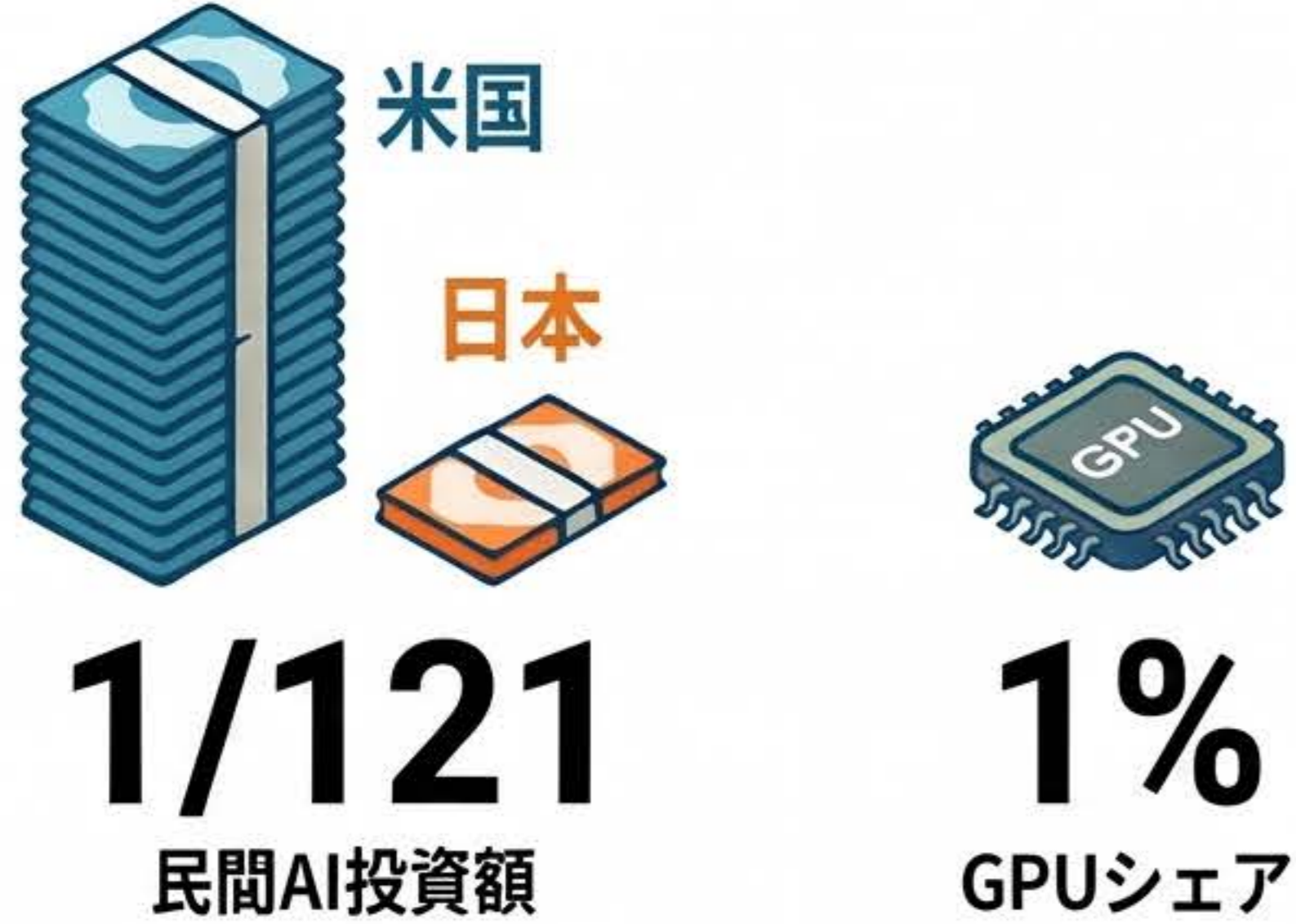


日本のAI for Science：国際競争を勝ち抜くための「勝ち筋」分析

米国との圧倒的な「投資・資源格差」



現状とリスク：直面する「厳しい現実」

深刻化する「人材不足」と「研究力の低下」



主要国との戦略的な立ち位置の違い

国・地域	主要戦略	投資・目標の特徴
米国	ジェネシス・ミッション	10年で科学生産性を2倍に向上、DOEが巨額投資
中国	「人工知能プラス」行動	2035年までの三段階目標で「AI+科学」を国家推進
日本	基本戦略方針（ARISE）	2026～30年を集中改革期間とし、1兆円規模の投資を表明

日本の「勝ち筋」：3つの戦略的打ち手

「質の高いデータ × 自動実験」の融合



強みの材料データと24時間稼働のAI駆動ラボ

AI研究者とドメイン研究者の「融合と翻訳」



分野の壁を越える人材を育成し、AIを使いこなす

「富岳NEXT」による独自の計算インフラ構築



国際連携の不可欠なパートナーへ